



# 新吉田

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shinyoshida>

横浜市立新吉田小学校

## 受け継がれる「優しさのバトン」

学校長 税田 栄一

校庭の木々がいっせいに若葉を広げ、さわやかな風が心地よい季節となりました。朝、校門に立っていると、子どもたちが新緑に包まれた通学路を通って元気に登校してきます。入学・進級から約1か月が経ち、新年度の緊張感も少しずつ和らぎ、学校全体に穏やかなリズムが生まれてきていることを感じます。

4月20日に行われた「1年生を迎える会」では、在校生から心のこもった歌「みんなの くすのき」が贈られ、また2年生からは、アサガオの種のプレゼントがありました。アサガオは、毎日水をあげ、様子をよく見て世話を続けることで、やがて美しい花を咲かせます。思うように育たない日もありますが、根気強く「関わり続ける」ことが、確かな成長を支えます。これは、友だちとの関係づくりも同じではないでしょうか。

その2年生が1年生を案内する「学校たんけん」では、なんとも微笑ましく、頼もしい姿が見られました。校長室に来た際、「あの写真は昔の校長先生の写真だよ。」「この亀は、校庭にいる亀が産んだ卵からかえったんだよ。」と、少し誇らしげに、一生懸命に説明する2年生。1年前は案内される側だった子どもたちが、今は相手を思いやり、自分の言葉で伝えようとする姿に、確かな成長を感じて胸が熱くなりました。

また、6年生は、登校後の準備を手伝ったり、給食の片付けをさりげなく支えたりしてくれています。

昨年度の卒業文集には、こんな言葉が多くありました。

**「自分が1年生のとき、6年生にやさしくしてもらったのがうれしかった。だから今度は、自分がやさしくしたい。」**

誰かにしてもらった温かな経験が心に残り、やがて次の誰かへと手渡されていく。本校には、そうした「優しさのバトン」が、静かに、しかし確かにめぐっています。

本校の学校教育目標は「しんけん なかよし だいすき」です。今月、こうした子どもたちの姿を通してあらためて見つめ直したいのが、この中の「なかよし」——つまり「人と関わる力」の育ちです。 「なかよし」とは、単に仲良くすることそのものだけではありません。人と関わりながら学び、支え合い、共に育ち合う力です。これからも、子どもたち一人一人の温かな関わりを大切にしながら、ご家庭や地域の皆様と共に、温かい学校づくりを進めてまいります。

なかよし

